

## 高知市方言の「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」 の意味分析

橋尾直和<sup>1)</sup>

(2015年9月25日受付, 2016年1月19日受理)

Analysis of the meanings of *kurumeru*, *shinoberu*, *kata<sup>a</sup>dukeru*, and *shimau*  
in the Kochi City dialect

Naokazu HASHIO<sup>1)</sup>

(Received : September 25. 2015, Accepted : January 19. 2016)

### 要 旨

高知市方言において、共通語の「かたづける」「しまう」の類義語に当たる「クルメル」「シノベル」がある。先行研究の方言の意味記述や辞書記述から、共通語の「かたづける」「しまう」と高知市方言の「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の意味領域には、ずれがあることが推測できる。しかし、いずれの意味記述も、「かたづける」「しまう」を用いての解説で、同語反復（トートロジー）となっており、意味・用法の差が明らかではない。本稿では、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」を対照させ、①対象、②目的、③移動場所、④動作の様態、⑤焦点の位置、⑥派生的用法の観点から意味分析し、類義語である4動詞の意義素を明らかにした。

キーワード：高知市方言、類義語、クルメル、シノベル、意義素

### Abstract

The Kochi City dialect includes the words *kurumeru* and *shinoberu*, which are used synonymously with *katazakeru* ‘to tidy up or put away’ and *shimau* ‘to put away or put back’ in standard Japanese. It may be inferred from semantic descriptions and dictionary entries of dialectal words in prior research that there is a shift in the semantic domain between *katazakeru* and *shimau* in standard Japanese and *kurumeru*, *shinoberu*, *kata<sup>a</sup>dukeru*, and *shimau* in the Kochi City dialect. However, whatever the semantic description, there is tautology in explanations using *katazakeru* and *shimau*, and no clear differences in meaning or usage. In this paper, we will contrast *kurumeru*, *shinoberu*, *kata<sup>a</sup>dukeru*, and *shimau*, analyze their meanings from the perspectives of 1) object, 2) purpose, 3) migration sites, 4) forms of action, 5) focal position, and 6) derivative usage, and clarify the sememe of these four synonymous verbs.

Key Words : Kochi City dialect, synonyms, *kurumeru*, *shinoberu*, sememe

---

1) 高知県立大学文化学部 教授 Professor, Faculty of Cultural Studies, University of Kochi

## 1. はじめに

筆者が、文部科学省研究費補助金特定領域研究「環太平洋の〈消滅に瀕した言語〉」に関する緊急調査研究の研究プロジェクトに参加し、日本班の成果報告書として『消滅に瀕した高知県限界集落の言語・民俗Ⅰ』（2002）を刊行してから早や10数年が経った。当時の調査地点は、旧池川町（現・仁淀川町）椿山と旧物部村（現・物部町）岡ノ内・市宇である。その後も、過疎・高齢化が進む限界集落の言語調査は続けられたが、都市部である高知市方言の言語調査については、「危機言語」と認識されていなかったためか、積極的には行われない傾向にあった。人口動態を考慮すれば、都市部の伝統的方言は衰退の方向にある。

高知県で限界集落化が進行する中山間地域の集落の方言と都市言語である高知市方言の意味分析を行い、使用される語彙の意味特徴の地域差を考察するとともに、集落あるいは都市部内の年層差を考察することは、地域言語の多様性の実態を把握するとともに、今後の地域のコミュニケーションのあり方を提示することにつながる。本稿の目的と意義は、この点にある。

高知市方言を対象に意味論を展開した先行研究としては、拙著「高知県高知市方言における「マケル」「ヨボウ」「コボレル」「アフレル」「モレル」「モル」」（1996）、同上「高知市方言における温度形容詞の意味論的考察」（2011）、同上「高知市方言における文末のモダリティ形式「ニカーラン」の意味論的考察」（2014）などがある。類義語のペアを用いて意味特徴を明らかにする手法は、効果的な方法であるが、この手法を用いた高知市方言における意味分析の先行研究が極めて少ないのが現状である。

本稿で取り上げた、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の類義語のペアは、筆者が知るところでは、これまで皆無である。したがって、この類義語のペアについては、オリジナルのものであると言える。そこで、以下に高知市方言の「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の意味分析を進めることとする。

高知市方言において、共通語の「かたづける」「しまう」の類義語に当たる「クルメル」「シノベル」がある。最初の例では、意味・用法の差は見られない。

- (1) a. ◎座布団を クルメル。  
b. ◎座布団を シノベル。

しかし、次の例では、意味・用法の差が見られる。

- (2) a. ×財布を 簞笥に クルメル。  
b. ◎財布を 簞笥に シノベル。

従来の方言記述には、以下の「クルメル」「シノベル」の意味記述が確認できる。なお、『日本方言大辞典』上巻については、高知市方言に該当する箇所のみ記述した。

◇『高知県方言辞典』（1985：181・253）

くるめる **動** (1) しまいこむ。しまつする。片づける。「はよ一座布団をクルメちょき」(2) 制御する。統御する。治める。「あの男は部下をクルメルがうまい」<sup>(1)</sup>

しのべる **動** 始末する。かたづける。「道具を使えばなしにせんづく、つこーてすんだら道具箱へシノベちょき」

◇『日本方言大辞典』上巻（1989：786・1099）

くるめる **【包】** **〔動〕** ②始末する。かたづける。「お菓子は戸棚にくるめておきよ」③制御する。「あの先生はよ一生徒をくるめちよる」

しのべる[動] ①ものをかたづける。しまう。納める。「簞笥へしのべる」

◇『土佐弁さんぽ』(1985: 82-83・121-122)

くるめる しまい込む。「掃除がすんだら道具をクルメちょきなさいよ」「外から帰ったら、お金入れはちゃんと引き出しへクルメちょかんといかんぞね」まとめ治める・管理・制御する。「うちの村長は、よう村をクルメちゅう（治めている）」「あの店の奥さんは多くの店員さんを、ようクルメてやりゆう（まとめてやっている）」

しのべる しまう・いれ納める・片付ける。「アタシャー（私は）時計を、どこへ置いつろう（置いたろうか）」「ちゃんと、シノベチョカンキニヨ（きちんと、しまって置かないからよ）」

いずれの意味記述も、「かたづける」「しまう」を用いての解説で、同語反復（トートロジー）となっており、意味・用法の差が明らかではない。

ここで、共通語「かたづける」「しまう」の辞書記述を確認しておきたい。

◇『明鏡国語辞典』(2010: 333・764)

かたづける【片付ける】〔他下一〕①散らかっている場所をきれいに整える。また、散らかっている物やじゃまな物を取り除いて、納まるべき所にきちんと納める。整理整頓する。「書斎〔食卓の上〕をきれいに―」②（ある仕方）で物事をきちんと解決したり済ませたりする。「急いで宿題を―・けてから遊ぼう」「金銭で物事を―・わけには行くまい」「管轄が違いますの一言で―・けられる」（＝すげなく処理される）③娘を嫁に行かせる。嫁がせる。「御嬢さんを早く―・けた方が得策だろう……〈漱石〉」④〔俗〕邪魔者や裏切り者などを取り除く。消す。殺す。また、手ひどくやつける。「裏切り者は直ちに―・けとけよ」「一発のパンチであっさりと―」⑤食事を余すところなく食べてしまう。「三膳飯をべろりと―（＝平らげる）」

しまう【仕舞う・終う・了う】<sup>(2)</sup> ーマフ〔動五〕〔他〕①〔やや古風な言い方で〕仕事などを終わりにする。すませる。「お店を―・ってから出かけるかね〈志賀直哉〉」「学校を―・って、浜へ行った〈漱石〉」②事業などをやめる。廃業する。「経営不振で店を―」

③使用済みの物や大切な物などをもとの場所や入れ物などに納め入れる。また、秘密などを心に畳んで表に出さないようにする。「冬物をたんすに―」「証券の類は金庫に―・ってある」「大切な秘密は心に―・っておこう」

以上の従来の記述から、共通語の「かたづける」「しまう」と高知市方言の「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の意味領域には、ずれがあることが推測できる。

そこで、本稿では、「クルメル」「シノベル」を「カタンドゥケル」<sup>(3)</sup>「シマウ」と対照させて分析し、それらの意味特徴を明らかにして意義素を抽出することを目的としたい。

なお、本稿で用いた例文における動詞に関して、ひらがな表記は共通語、カタカナ表記は高知市方言を表す。話者が文法的におかしいと判断する文（非文）には×、文法的に正しいと判断する文（成文）で頻度としてよく使う場合には◎を、文法的には正しいと判断するが頻度としてはあまり使わない場合には○の記号を施している。

本稿で用いた例文の判定は、すべて高知市上町在住の高年層方言話者である生え抜きのインフォーマント（資料提供者）四ノ宮久雄氏（1934年（昭和9年）3月生まれで現在81歳）によるものである<sup>(4)</sup>。言語調査は、予備調査を2015年4月、本調査を2015年9月に行った。なお、意味分析に関しては、国広（1982a: 40-44）において指摘されるように、個人間の差異を抽象化する必要はあるが、調査地点の言語状況を代表するのが、生え抜きの話者とみなす言語地理学的手法を採用し、四ノ宮氏の個人語（idiolect）

の意味分析を行う<sup>(5)</sup>。

## 2. 意味分析

共通語の「かたづける」「しまう」については、国広（1982b：45-52）に詳細な分析が見られる。ここでは、大きく5つの観点から分析が施されている。そこで、便宜上〈分析1〉～〈分析5〉として、検討していきたい。この論考において、①対象、②目的、③移動場所、④動作の様態、⑤焦点の位置、⑥派生的用法についての考察がなされているので、参照しておきたい。

先行研究の例文は、話者がおかしいと判断する文（非文）には×、文法的に正しいと判断する文（成文）には○、許容度が低いと判断する文には？の記号を施している。

〈分析1〉では、③移動場所の意味特徴について、「この二つの動詞は、同じ目的語と共に用いても「しまう」では〈収納場所〉が表現されることが多いのに対して、「かたづける」ではそれは普通表現されない」とし、次の用例を挙げている。

- (3) a. ?道具を 戸棚に かたづける。 (=国広 2b：46)  
b. ○道具を 戸棚に しまう。 (=国広 2a：同上)

〈分析2〉でも同様に、③移動場所の意味特徴について述べている。「〈収納場所〉は「閉じた空間」である。したがって閉じていない空間に「しまう」ことはできないが、視覚的には見えても、その空間が閉じられているならば、「シマウ」を使うことができる。「かたづける」場合は「閉じた空間」である〈収納場所〉は、必ずしも必要でない」とし、次の用例を挙げている。

- (4) a. ○人形を ガラス戸棚に しまう。 (=国広 7：47)  
b. ×人形を 部屋の隅に しまう。 (=国広 6：同上)

〈分析3〉では、②目的と④動作の様態の意味特徴と⑤焦点の位置について述べている。「「かたづける」は、物を移動させて場所がそれ自体の〈機能を果たせるようにする〉ことの方に重点のある動作を指す。「しまう」は、目的語の位置には移動させられる〈物〉しかくることができないのに対して、「かたづける」では〈物〉のほかに〈場所〉を指す語がくることができる」とし、次の用例を挙げている。

- 〈物〉を 〈収納場所〉に しまう。 (=国広 10：48)  
(5) 本を 本棚に しまう。  
〈場所〉を かたづける。 (=国広 11：同上)  
(6) 机の上を かたづける。  
〈場所〉の〈物〉を かたづける。 (=国広 11：同上)  
(7) 机の上の本を かたづける。

〈分析4〉では、①対象の意味特徴について述べている。『「閉じた空間」へ「しまう」場合の〈物〉は、保存されるべき有用な物、すなわち〈使わない物〉あるのに対して、〈場所の機能を発揮させる〉ために「かたづける」場合の〈物〉は、〈場所〉を『乱雑に〕ふさいで邪魔になっている物』すなわち〈場所ふさぎの物〉であるという違いがある」とし、次の用例を挙げている。

- (8) 散らかった部屋を かたづける。 (=国広 14：49)  
(9) いざというときのために 玄関に揃えておいた長靴を しまう。 (=国広 17：51)

〈分析5〉では、⑥派生的用法について述べている。「「かたづける」の派生的用法は、〈場所ふさぎ〉の「邪魔物」を対象とすることから生じたと考えられる」とし、次の用例を挙げている。

- (10) 邪魔者を かたづける。(=殺す) (=国広 18：51)

(11) 娘を かたづける。(=嫁にやる) (=国広 19: 同上)

(12) 仕事を かたづける。(=やり終える) (=国広 20: 同上)

また、「仕事については、自分自身の時間を持つことを『邪魔する物』と捉えている。

以上のことから、「かたづける」「しまう」の意義素を、以下のようにまとめている<sup>(6)</sup>。

かたづける：《〈場所の機能を発揮させるために〉〈場所ふさぎの物を〉〈移動させる〉》

しまう：《〈使わない物を〉〈収納場所へ〉〈入れる〉》

本稿では、国広（1982b：45-52）の「かたづける」「しまう」の意味分析と先の方言の意味記述と辞書記述等を参照しながら、①対象、②目的、③移動場所、④動作の様態、⑤焦点の位置、⑥派生的用法の観点から、高知市方言における「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の意味分析を行うことにする。

## 2.1 対象

まず、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」が、どのような対象と共起するのか考察してみたい。

(13) a. ◎道具を クルメル。

b. ◎道具を シノベル。

c. ◎道具を カタンドゥケル。

d. ◎道具を シマウ。

(14) a. ◎使わなくなった道具を クルメル。

b. ◎使わなくなった道具を シノベル。

c. ◎使わなくなった道具を カタンドゥケル。

d. ◎使わなくなった道具を シマウ。

(15) a. ×これから使う道具を クルメル。

b. ×これから使う道具を シノベル。

c. ×これから使う道具を カタンドゥケル。

d. ×これから使う道具を シマウ。

(16) a. ○通路を塞いでいる道具を クルメル。

b. ○通路を塞いでいる道具を シノベル。

c. ◎通路を塞いでいる道具を カタンドゥケル。

d. ○通路を塞いでいる道具を シマウ。

(17) a. ◎布団を クルメル。

b. ◎布団 シノベル。

c. ◎布団を カタンドゥケル。

d. ◎布団を シマウ。

(18) a. ◎使わなくなった布団を クルメル。

b. ◎使わなくなった布団を シノベル。

c. ◎使わなくなった布団を カタンドゥケル。

- d. ◎使わなくなった布団を シマウ。
- (19) a. ×これから使う布団を クルメル。  
 b. ×これから使う布団を シノベル。  
 c. ×これから使う布団を カタンドゥケル。  
 d. ×これから使う布団を シマウ。
- (20) a. ○部屋を塞いでいる布団を クルメル。  
 b. ○部屋を塞いでいる布団を シノベル。  
 c. ◎部屋を塞いでいる布団を カタンドゥケル。  
 d. ○部屋を塞いでいる布団を シマウ。

(13) と (17) から、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の対象は、〈道具〉〈布団〉のような〈物〉について用いることが分かる。(14) と (15) において、〈使わなくなった道具〉に対して◎で、〈これから使う道具〉に対して×であること、(18) と (19) において、〈使わなくなった布団〉に対して◎で、〈これから使う布団〉に対して×であることから、〈使わなくなった物〉であることが分かる<sup>(7)</sup>。(16) と (20) において、〈通路を塞いでいる道具〉〈部屋を塞いでいる布団〉が対象の場合は、「カタンドゥケル」が◎で、「クルメル」「シノベル」「シマウ」が○であることから、「カタンドゥケル」の対象は、〈場所ふさぎの物〉であることが分かる。

- (21) a. ○友だちからもらったプレゼントを クルメル。  
 b. ◎友だちからもらったプレゼントを シノベル。  
 c. ○友だちからもらったプレゼントを カタンドゥケル。  
 d. ◎友だちからもらったプレゼントを シマウ。
- (22) a. ×大切な宝物を 簞笥に クルメル。  
 b. ◎大切な宝物を 簞笥に シノベル。  
 c. ×大切な宝物を 簞笥に カタンドゥケル。  
 d. ◎大切な宝物を 簞笥に シマウ。

(21) と (22) から、「シノベル」「シマウ」の対象には、〈大切な物〉という意味特徴もあることが分かる。

「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の対象についての意味特徴をまとめれば、次のとおりである。

- クルメル           : 〈使わなくなった物〉  
 シノベル           : 〈使わなくなった物または大切な物〉  
 カタンドゥケル   : 〈場所ふさぎの物〉  
 シマウ             : 〈使わなくなった物または大切な物〉

## 2.2 目的

次に、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」が、どのような目的と共起するのか考察してみたい。

- (23) a. ×机の上を クルメル。  
 b. ×机の上を シノベル。  
 c. ◎机の上を カタンドゥケル。



- d. ×机の上を シマウ。
- (24) a. ×机の上を 元通りに クルメル。  
 b. ×机の上を 元通りに シノベル。  
 c. ◎机の上を 元通りに カタンドゥケル。  
 d. ×机の上を 元通りに シマウ。
- (25) a. ×通路を 通れるように クルメル。  
 b. ×通路を 通れるように シノベル。  
 c. ◎通路を 通れるように カタンドゥケル。  
 d. ×通路を 通れるように シマウ。
- (26) a. ×邪魔になっている布団を 部屋の隅っこに クルメル。  
 b. ×邪魔になっている布団を 部屋の隅っこに シノベル。  
 c. ◎邪魔になっている布団を 部屋の隅っこに カタンドゥケル。  
 d. ×邪魔になっている布団を 部屋の隅っこに シマウ。

(23) ～ (26) から、先行研究の〈分析4〉の共通語「かたづける」と同様、「カタンドゥケル」の場合は、〈場所の機能を発揮させるため〉ということが分かる。他の動詞は、目的に関しては、関係がないことが分かる。

「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の対象についての意味特徴をまとめれば、次のとおりである。

- クルメル           : 関係なし  
 シノベル           : 関係なし  
 カタンドゥケル: 〈場所の機能を発揮させるため〉  
 シマウ             : 関係なし

## 2.3 移動場所

次に、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」が、どのような目的と共起するのか考察してみたい。

- (27) a. ◎布団を 衣装ケースに クルメル。  
 b. ◎布団を 衣装ケースに シノベル。  
 c. ◎布団を 衣装ケースに カタンドゥケル。  
 d. ◎布団を 衣装ケースに シマウ。
- (28) a. ◎布団を 押し入れに クルメル。  
 b. ◎布団を 押し入れに シノベル。  
 c. ◎布団を 押し入れに カタンドゥケル。  
 d. ◎布団を 押し入れに シマウ。
- (29) a. ◎布団を 上の蓋が開いている段ボール箱に クルメル。  
 b. ×布団を 上の蓋が開いている段ボール箱に シノベル。  
 c. ◎布団を 上の蓋が開いている段ボール箱に カタンドゥケル。  
 d. ○布団を 上の蓋が開いている段ボール箱に シマウ。
- (30) a. ◎布団を 部屋の隅っこに クルメル。

- b. ×布団を 部屋の隅っこに シノベル。
- c. ◎布団を 部屋の隅っこに カタンドゥケル。
- d. ×布団を 部屋の隅っこに シマウ。

(27) ～ (30) から、「クルメル」「カタンドゥケル」に関しては、〈収納場所〉の空間が閉じているか閉じていないかは関係がなく、また、移動場所は、〈収納場所〉がもとある場所かどうかは関係がない。「シノベル」「シマウ」に関しては、移動場所について、〈衣装ケース〉〈押し入れ〉が◎で、〈上の蓋が開いている段ボール箱〉〈部屋の隅っこ〉が×であることから、〈閉じた空間の収納場所〉でなければならないことが分かる。

- (31) a. ◎買ったばかりの布団を 衣装ケースに クルメル。
- b. ◎買ったばかりの布団を 衣装ケースに シノベル。
- c. ◎買ったばかりの布団を 衣装ケースに カタンドゥケル。
- d. ◎買ったばかりの布団を 衣装ケースに シマウ。
- (32) a. ◎布団を 元の衣装ケースに クルメル。
- b. ◎布団を 元の衣装ケースに シノベル。
- c. ◎布団を 元の衣装ケースに カタンドゥケル。
- d. ◎布団を 元の衣装ケースに シマウ。

また、(31) と (32) から、移動場所は、〈収納場所〉がもとある場所かどうかは関係がないことが分かる。

- (33) a. ○布団を 丸めて 人の目につくケースに クルメル。
- b. ×布団を 丸めて 人の目につくケースに シノベル。
- c. ○布団を 丸めて 人の目につくケースに カタンドゥケル。
- d. ○布団を 丸めて 人の目につくケースに シマウ。
- (34) a. ○布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に クルメル。
- b. ◎布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に シノベル。
- c. ○布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に カタンドゥケル。
- d. ○布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に シマウ。

(33) と (34) から、「シノベル」に関しては、〈人の目につかない閉じた空間の収納場所〉という意味特徴があることが分かる。「クルメル」「カタンドゥケル」「シマウ」については、これについては関係がない。

国広 (1982b : 46-47) には、共通語の「しまう」の移動場所の意味特徴である〈閉じた空間の収納場所〉として、「冷蔵庫、財布、洋服箆笥、ポケット、ハンドバック、引き出し、風呂敷、押し入れ、倉庫」などを挙げている。この点については、高知市方言の「シマウ」も同様であることが確認できた。「シノベル」に関して、このうちの「財布、ポケット、ハンドバック」については、(35) ～ (37) のように、持ち運びが簡単で人の目につきやすいことから、すべて×となる。このことから、「シノベル」の移動場所は、〈人の目につかない閉じた空間の収納場所〉であることが分かる。

- (35) a. ×財布に クルメル。
- b. ×財布に シノベル。
- c. ×財布に カタンドゥケル。
- d. ◎財布に シマウ。



- (36) a. ×ポケットに クルメル。  
 b. ×ポケットに シノベル。  
 c. ×ポケットに カタンドゥケル。  
 d. ◎ポケットに シマウ。
- (37) a. ×ハンドバックに クルメル。  
 b. ×ハンドバックに シノベル。  
 c. ×ハンドバックに カタンドゥケル。  
 d. ◎ハンドバックに シマウ。

「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の収納場所についての意味特徴をまとめれば、次のとおりである。

クルメル	：〈収納場所〉
シノベル	：〈人の目につかない閉じた空間の収納場所〉
カタンドゥケル	：〈収納場所〉
シマウ	：〈閉じた空間の収納場所〉

## 2.4 動作の様態

次に、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」が、どのような動作の様態と共起するのか考察してみたい。

- (38) a. ◎布団を 丸めて クルメル。  
 b. ◎布団を 丸めて シノベル。  
 c. ◎布団を 丸めて カタンドゥケル。  
 d. ◎布団を 丸めて シマウ。
- (39) a. ×布団を 丸めんづくに（丸めずに） クルメル。  
 b. ◎布団を 丸めんづくに（丸めずに） シノベル。  
 c. ◎布団を 丸めんづくに（丸めずに） カタンドゥケル。  
 d. ◎布団を 丸めんづくに（丸めずに） シマウ。

(38) と (39) から、「クルメル」の場合、動作の様態に関して、〈丸めまとめる〉動作が必要なが分かる。「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」については、この動作については関係がない。

- (40) a. ◎プリントを 丸めて クルメル。  
 b. ◎プリントを 丸めて シノベル。  
 c. ◎プリントを 丸めて カタンドゥケル。  
 d. ◎プリントを 丸めて シマウ。
- (41) a. ◎鉄板を 丸めて クルメル。  
 b. ◎鉄板を 丸めて シノベル。  
 c. ◎鉄板を 丸めて カタンドゥケル。  
 d. ◎鉄板を 丸めて シマウ。

対象が〈布団〉や〈座布団〉のような柔らかい素材の物は、〈丸める〉動作を行うことの頻度が高いが、(40) と (41) から通常丸めることがない物である〈プリント〉〈鉄板〉でも〈丸める〉動作を行うことができれば「クルメル」は使えることが分かる<sup>(8)</sup>。

それでは、〈本〉の場合はどうだろうか。

- (42) a. ×本を クルメル。  
 b. ◎本を シノベル。  
 c. ◎本を カタンドゥケル。  
 d. ◎本を シマウ。
- (43) a. ◎本を 風呂敷で クルメル。  
 b. ◎本を 風呂敷で シノベル。  
 c. ◎本を 風呂敷で カタンドゥケル。  
 d. ◎本を 風呂敷で シマウ。
- (44) a. ×本を 風呂敷を使わないで クルメル。  
 b. ◎本を 風呂敷を使わないで シノベル。  
 c. ◎本を 風呂敷を使わないで カタンドゥケル。  
 d. ◎本を 風呂敷を使わないで シマウ。

(42) ～ (44) から、「クルメル」に関しては、〈本〉単独と〈風呂敷を使わない〉場合は×で、〈風呂敷を使う〉場合に◎であることから、〈本〉の場合は、風呂敷を使って、〈丸めまとめる〉ことができれば、使用できることが分かる。

- (45) a. ◎布団を 丸めて ちゃんと(きちんと) 押し入れに クルメル。  
 b. ◎布団を 丸めて ちゃんと(きちんと) 押し入れに シノベル。  
 c. ◎布団を 丸めて ちゃんと(きちんと) 押し入れに カタンドゥケル。  
 d. ◎布団を 丸めて ちゃんと(きちんと) 押し入れに シマウ。
- (46) a. ◎布団を 丸めて えい加減に(いい加減に) 押し入れに クルメル。  
 b. ×布団を 丸めて えい加減に(いい加減に) 押し入れに シノベル。  
 c. ◎布団を 丸めて えい加減に(いい加減に) 押し入れに カタンドゥケル。  
 d. ×布団を 丸めて えい加減に(いい加減に) 押し入れに シマウ。

(45) と (46) から、「シノベル」「シマウ」に関しては、〈きちんと入れる〉という意味特徴があることが分かる。この点については、「クルメル」「カタンドゥケル」には関係がなく、〈移動させる〉だけでよい。

「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の動作の様態についての意味特徴をまとめれば、次のとおりである。

- クルメル : 〈丸めまとめて移動させる〉  
 シノベル : 〈きちんと入れる〉  
 カタンドゥケル : 〈移動させる〉  
 シマウ : 〈きちんと入れる〉

## 2.5 焦点の位置

次に、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の焦点の位置について考察してみたい。

- (47) a. ◎布団を 丸めて クルメル。 (=35a)  
 b. ◎布団を 丸めて シノベル。 (=35b)  
 c. ◎布団を 丸めて カタンドゥケル。 (=35c)

- d. ◎布団を 丸めて シマウ。 (=35d)
- (48) a. ×布団を 丸めんづつ（丸めずに） クルメル。 (=36a)
- b. ◎布団を 丸めんづつ（丸めずに） シノベル。 (=36b)
- c. ◎布団を 丸めんづつ（丸めずに） カタッドゥケル。 (=36c)
- d. ◎布団を 丸めんづつ（丸めずに） シマウ。 (=36d)

(47) と (48) から、「クルメル」の焦点の位置は、〈丸めまとめる〉という「動作の様態」であることが分かる。「クルメル」「カタッドゥケル」「シマウ」については、これについては関係がない。

- (49) a. ○布団を 丸めて 人の目につくケースに クルメル。 (=33a)
- b. ×布団を 丸めて 人の目につくケースに シノベル。 (=33b)
- c. ○布団を 丸めて 人の目につくケースに カタッドゥケル。 (=33c)
- d. ○布団を 丸めて 人の目につくケースに シマウ。 (=33d)
- (50) a. ○布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に クルメル。 (=34a)
- b. ◎布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に シノベル。 (=34b)
- c. ○布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に カタッドゥケル。 (=34c)
- d. ○布団を 丸めて 人の目につかないケースの奥に シマウ。 (=34d)

(49) と (50) から、「シノベル」の焦点の位置は、〈人の目につかない閉じた空間の収納場所〉という「移動場所」であることが分かる。

- (51) a. ◎布団を 丸めて ちゃんと（きちんと） 押し入れに クルメル。 (=42a)
- b. ◎布団を 丸めて ちゃんと（きちんと） 押し入れに シノベル。 (=42b)
- c. ◎布団を 丸めて ちゃんと（きちんと） 押し入れに カタッドゥケル。 (=42c)
- d. ◎布団を 丸めて ちゃんと（きちんと） 押し入れに シマウ。 (=42d)
- (52) a. ◎布団を 丸めて えい加減に（いい加減に） 押し入れに クルメル。 (=43a)
- b. ×布団を 丸めて えい加減に（いい加減に） 押し入れに シノベル。 (=43b)
- c. ◎布団を 丸めて えい加減に（いい加減に） 押し入れに カタッドゥケル。 (=43c)
- d. ×布団を 丸めて えい加減に（いい加減に） 押し入れに シマウ。 (=43d)

(51) と (52) から、「シノベル」「シマウ」の焦点の位置は、〈きちんと入れる〉という「動作の様態」であることが分かる。

- (53) a. ×机の上を 元通りに クルメル。 (=24a)
- b. ×机の上を 元通りに シノベル。 (=24b)
- c. ◎机の上を 元通りに カタッドゥケル。 (=24c)
- d. ×机の上を 元通りに シマウ。 (=24d)
- (54) a. ×通路を 通れるように クルメル。 (=25a)
- b. ×通路を 通れるように シノベル。 (=25b)
- c. ◎通路を 通れるように カタッドゥケル。 (=25c)
- d. ×通路を 通れるように シマウ。 (=25d)

(53) と (54) から、「カタッドゥケル」の焦点の位置は、〈場所の機能を発揮させるため〉という「目的」であることが分かる。

「クルメル」「シノベル」「カタッドゥケル」「シマウ」の焦点の位置をまとめれば、次のとおりである。

クルメル : 〈丸める〉という「動作の様態」

- シノベル : 〈人の目につかない閉じた空間の収納場所〉という「移動場所」および〈きちんと入れる〉という「動作の様態」
- カタンドゥケル : 〈場所の機能を発揮させるため〉という「目的」
- シマウ : 〈きちんと入れる〉という「動作の様態」

## 2.6 派生的用法

- (55) a. ×邪魔者を クルメル。  
 b. ×邪魔者を シノベル。  
 c. ◎邪魔者を カタンドゥケル。  
 d. ×邪魔者を シマウ。
- (56) a. ×娘を クルメル。  
 b. ×娘を シノベル。  
 c. ◎娘を カタンドゥケル。  
 d. ×娘を シマウ。
- (57) a. ×仕事を クルメル。  
 b. ×仕事を シノベル。  
 c. ◎仕事を カタンドゥケル。  
 d. ×仕事を シマウ。
- (58) a. ×大盛りのご飯を<sup>(9)</sup> ぺろりと クルメル。  
 b. ×大盛りのご飯を ぺろりと シノベル。  
 c. ◎大盛りのご飯を ぺろりと カタンドゥケル。  
 d. ×大盛りのご飯を ぺろりと シマウ。
- (59) a. ×店を クルメル。  
 b. ×店を シノベル。  
 c. ×店を カタンドゥケル。  
 d. ◎店を シマウ。
- (60) a. ×思い出を 胸に クルメル。  
 b. ×思い出を 胸に シノベル。  
 c. ×思い出を 胸に カタンドゥケル。  
 d. ○思い出を 胸に シマウ。
- (61) a. ◎あの町長は よう(よく) 町を クルメチュー。  
 b. ×あの町長は よう(よく) 町を シノベチュー。  
 c. ×あの町長は よう(よく) 町を カタンドゥケチュー。  
 d. ×あの町長は よう(よく) 町を シモーチュー。

先行研究の〈分析5〉において、「かたづける」と共起する「邪魔者」「娘」「仕事」「大盛りのご飯」は、〈場所ふさぎの物〉である〈邪魔物〉からの派生であると捉えているが、これについては、(52)～(55)から、高知市方言の「カタンドゥケル」においても同様である。(56)の「シマウ」と共起する「店」は、〈使わなくなった物〉からの派生、(57)の「思い出」は、〈大切な物〉からの派生であると捉えることができる。(58)の「クルメル」の例は、〈丸くまとめる〉からの派生であると捉えることができる。

『高知県方言辞典』（1985：181）の用例「あの男は部下をクルメルがうまい」、『日本方言大辞典』上巻（1989：786）の用例「あの先生はよ一生徒をくるめちよる」も同様である。「シノベル」については、派生的用法は見られない。

以上のことから、「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の意義素についてまとめると、次のとおりである。

- クルメル           ：《使わなくなった物を》〈収納場所に〉〈丸めまとめて〉〈移動させる〉》  
 シノベル           ：《〈使わなくなった物または大切な物を〉〈人の目につかない閉じた空間の収納場所に〉〈きちんと入れる〉》  
 カタンドゥケル：《〈場所ふさぎの物を〉〈場所の機能を発揮させるために〉〈移動させる〉》  
 シマウ            ：《〈使わなくなった物または大切な物を〉〈閉じた空間の収納場所に〉〈きちんと入れる〉》

### 3. おわりに

以上の意味分析から明らかになった、共通語の「かたづける」「しまう」の意義素と高知市方言の「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」の意味特徴を比較対照しておきたい。

①対象、②目的、③移動場所、④動作の様態にしばり、以下にまとめる。なお、共通語「しまう」の対象については、方言の意味特徴と同様、〈使わなくなった物または大切な物〉に統一して記述した<sup>(10)</sup>。

〔対象〕

- かたづける       ：〈場所ふさぎの物〉  
 しまう            ：〈使わなくなった物または大切な物〉  
 クルメル         ：〈使わなくなった物〉  
 シノベル         ：〈使わなくなった物または大切な物〉  
 カタンドゥケル：〈場所ふさぎの物〉  
 シマウ            ：〈使わなくなった物または大切な物〉

〔目的〕

- かたづける       ：〈場所の機能を発揮させるため〉  
 しまう            ：無関係  
 クルメル         ：無関係  
 シノベル         ：無関係  
 カタンドゥケル：〈場所の機能を発揮させるため〉  
 シマウ            ：無関係

〔移動場所〕

- かたづける       ：無関係  
 しまう            ：〈収納場所〉  
 クルメル         ：〈収納場所〉  
 シノベル         ：〈人の目につかない閉じた空間の収納場所〉  
 カタンドゥケル：無関係  
 シマウ            ：〈閉じた空間の収納場所〉

〔動作の様態〕

- かたづける : 〈移動させる〉  
 しまう : 〈入れる〉  
 クルメル : 〈丸めまとめて移動させる〉  
 シノベル : 〈きちんと入れる〉  
 カタンドゥケル : 〈移動させる〉  
 シマウ : 〈きちんと入れる〉

すなわち、①対象において、「かたづける」と「カタンドゥケル」、「しまう」と「シノベル」「シマウ」の意味特徴が同じであること、②目的において、「かたづける」と「カタンドゥケル」の意味特徴が同じであること、③移動場所において、「しまう」と「クルメル」の意味特徴が同じで、「シノベル」と「シマウ」に関しては、〈閉じた空間の収納場所〉という意味特徴は同じであるが、「シノベル」が〈人の目につかない〉という意味特徴を有する点が異なること、④動作の様態において、「かたづける」と「カタンドゥケル」、「シノベル」と「シマウ」の意味特徴が同じで、「クルメル」に関しては、「かたづける」と「カタンドゥケル」の〈移動させる〉という意味特徴は同じであるが、〈丸めまとめて〉という意味特徴が異なること、「シノベル」と「シマウ」に関しては、「しまう」と〈入れる〉という意味特徴は同じであるが、〈きちんと〉という意味特徴を有する点が異なることが分かった。

本稿では、共通語「かたづける」「しまう」の類義語に当たる高知市方言「クルメル」「シノベル」「カタンドゥケル」「シマウ」を高年層方言にしばって考察してきた。今後の課題としては、年層差・性差を明らかにすることが考えられる。

本稿をなすに当たっては、インフォーマントの四ノ宮久雄氏に大変お世話になりました。ここに記して、感謝申し上げます。

#### 【注】

- (1) 『高知県方言辞典』(1985: 181) の(注)には、「共通語の「くるめる」は、包みこむ(ように一つにまとめる)の意」とある。
- (2) 本稿では、他動詞である「シマウ」を考察するため、『明鏡国語辞典』(2010: 333)の自動詞の項は省略した。
- (3) 「カタンドゥケル」の「ド」の前の「ン」は、高知市方言の伝統的方言において、ガ行・ダ行音に現れる前鼻音を指す。
- (4) インフォーマント(資料提供者)である四ノ宮氏には、氏名・年齢等の個人情報を公開することの承諾を得ている。また、本稿の資料収集のための言語調査を行うに当たり、高知県立大学文化研究倫理審査委員会の審査を受け、パスしていることをお断りしておく。
- (5) 意味分析において、個人語(idiolect)である執筆者の内省による意味記述を扱った論考に、名嘉真(2000)、沖(2013)がある。名嘉真三成氏は琉球の宮古西原方言、沖裕子氏は長野県松本市方言のネイティブであるが、内省に基づく個人語(idiolect)を出身地の方言を代表させて意味記述を展開している。その他の論考として、「環太平洋の〈消滅に瀕した言語〉にかんする緊急調査研究」の刊行物である、Anna BUGAEVA(2004)、琉球語の首里方言を記述した宮良(2000)がある。Anna BUGAEVA氏は、アイヌ語千歳方言の文法と口承文芸の記述を行い、「小田イトの個人語」と



して題目に掲げている。宮良信詳氏は、首里方言のアクセントの記述において、注記に「本章におけるデータは喜名朝昭氏の個人語 (idiolect) に基づくものである」と明記している。

- (6) 国広 (1982b : 51-52) において、「かたづける」「しまう」両語の意味領域の重なる部分が、英語の put away に当たると捉え、共通の意味特徴を「〈必要とされない物〉を〈他の場所へ移す〉」と捉えている。
- (7) 国広 (1982b : 51) では、「しまう」の対象の意味特徴を、〈使わない物〉としているが、一度使った物を収納場所へ移動させることから、「シマウ」の対象の意味特徴を、〈使わなくなった物〉とした。
- (8) 対象が、プリントの場合も鉄板の場合も、とにかく〈丸める〉ことができれば、素手であれ道具であれ、手段については問わない。
- (9) 『明鏡国語辞典』(2010 : 333) には、「三膳の飯を」とあるが、使用頻度が少ないことから、「大盛りの飯を」と変更することにした。
- (10) 『明鏡国語辞典』(2010 : 764) の「しまう」の記述にあるように、〈大切な物〉という意味特徴は、「シノベル」「シマウ」だけではなく、共通語の「しまう」も共有することが、以下の例文から分かる。
- (62) 友だちからもらったプレゼントを しまう。
- (63) 大切な宝物を 簞笥に しまう。
- したがって、国広 (1982b : 51) の意義素の記述には、〈大切な物〉という意味特徴を加える必要がある。

#### 【引用・参考文献】

- 沖 裕子 (2013) 「終助詞を用いた推量表現－談話論による松本方言の分析－」『人文科学論集 文化コミュニケーション学科編』47号 : 1-14
- 北原保雄編 (2010) 『明鏡国語辞典』第二版 大修館書店 : 333
- 国広哲弥 (1982a) 『意味論の方法』大修館書店 : 41-42
- 国広哲弥 (1982b) 「シマウ・カタツケル」『ことばの意味3』平凡社 : 45-52
- 尚学図書編 (1989) 『日本方言大辞典』上巻 小学館 : 786・1099
- 竹村義一 (1985) 『土佐弁さんぽ』高知新聞社 : 82-83・121-122
- 土居重俊・浜田数義編 (1985) 『高知県方言辞典』高知市文化振興事業団 : 181・253
- 名嘉真三成 (2000) 『琉球方言の意味論』ルック
- 中本正智 (1981) 『日本語の原景－日本列島の言語学－』金鶏社
- 橋尾直和 (1996) 「高知県高知市方言における「マケル」「ヨボウ」「コボレル」「アフレル」「モレル」「モル」」『高知女子大学紀要 人文・社会科学編』通号44号 : 73-86
- 橋尾直和 (2011) 「高知市方言における温度形容詞の意味論的考察」『語文と教育』第25号 : 86-65
- 橋尾直和 (2014) 「高知市方言における文末のモダリティ形式「ニカーラン」の意味論的考察」『語文と教育』第28号 : 77-96
- 宮良信詳 (2000) 『うちなーぐち講座－首里ことばのしくみ－』沖縄タイムス社
- Anna BUGAEVA (2004) “Grammar and Folklore Texts of the Chitose Dialect of Ainu (idiolect of Ito Oda) (アイヌ語千歳方言の文芸と口承文芸－小田イトの個人語－)”『環太平洋の〈消滅に瀕した言語〉にかんする緊急調査研究』報告書 大阪学院大学情報学部